

## 2021 年度 研究所事業報告書

研究所名	生存学研究所
------	--------

**I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること**

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2020 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうできるだけわかりやすく記述してください。なお、2020 年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、書式 B に記述のうえ提出してください。

◇有限のときに脆弱な身体とともに人は生き、その人たちの社会がある。その記録・記憶を集積し、考え、未来を構想する。その活動を行おうとする時、なすべきことはあまりに多く、個々人の研究の集積ではそれを行えない。だから研究所という組織・場所を作り、より効率的な運営の道を工夫してきた。

◇【「若手」に働いてもらう】今の常勤の教員たちは忙しい。しかし何がなされるべきかはわかる。方法を知り文献や人を知っている。そして客員研究員は 100 人を超えた。それらの人の知恵と技術を用い、そしてつなぎ、大学院生、所謂若手研究者が研究する環境を提供し具体的に指導してきた。MLをたんに事務連絡のためだけでなく使う。これまでに研究所全体の ML に配信されたメールの累計は 22000 通。多い日には 10 通ほどが行き交う。研究所の資産ともなる部分には院生他への人件費を支出している。作業をする院生他と所長・所属教員・専門研究員との間のメールは 1 年で約 4000 通。その作業の多くがキャンパスに来る必要なく十分に可能であることへの理解を求め続けている。

◇【現在を記録しそのまま集積していく】その日々の活動を論文にするまで待つのではなく、その日その日にサイトにあげる。シンポジウムの記録をすぐに文字にし、やはり公開する。その仕事自体がアーカイブの仕事でもある。継続して COVID-19 についての報道や言論を集めることもした。それはその時々の実用のためということもあるが、手立てを講じなければ何もかもがすぐに忘れられてしまうのだから、それ自体が現在をアーカイブしていく営みでもある。科学研究費および本学からの研究資金を用い、その活動を行なった。所蔵資料の本格的な目録作成を開始した。

◇【もとの、全体の記録を提供する】記録の全体を、例えばインタビューの全体を、むろん同意を得られた場合、掲載・公開していった。論文でしか証言を知ることができないのでは遅いもったいない。人が亡くなっていく速度に追いつけない。そしてもとの記録から様々な理解も生まれる。そうした材料・資源を集めて提供することを、自覚的・組織的に、行なってきている。

◇【まずアジアの拠点となる】世界的にそうした試みは幾つか始まりつつあるが、アジアにはそうない。その先鞭をつける。例えば SNS 上の情報は古文書の類より時に保存が困難であり、そこに各国の政治・社会状況が加わる。やがてかの地の情勢が改善されるまで、留学生等の手も借りて、かえって現在だから保存しにくい情報を蓄積し、可能で妥当なら、公開する。そして世界、とくに東アジアでの研究とこれからの社会に貢献する。多言語化は不十分だが、私たちのサイトの 2020 年度のアクセス数は年間約 3000 万。大学が運営する研究機関のサイトとしてはたいへん多くの人たちに利用してもらっている。

◇【身体がそこになくてもよいこと、あった方がよいこと、双方をご都合主義的でなく実現していく】COVID-19 流行のもとで手話を含む多くの言語を用いた国際的なオンラインの企画を昨年度に引き続き幾つも行った。手話映像や字幕付のウェビナーの原型を作り、そのノウハウを利用し、より発展させた本研究所の企画や関係学会の大会が 2022 年度にもなされる。こうしてその場に身体が不要であることはたしかにある。しかしそれがかけるべき手間を省くためになされてならないし、緊急対応だからとなされるべき対応が後回しにされてはならない。私たちは、具体的に、本学のキャンパス、建物から、足元のアクセシビリティの点検と改善から始め、COVID-19 後海外からを含む人々を迎えるための近辺の宿の点検等も行なってきた。学内の各所に働きかけ、地域の営利・非営利組織に働きかけてきている。むろんそれは本研究所だけのことだけではない。ただ、このよしあしは別にその「核」がないとものごとは前進しない。本研究はその「当座の」核の役を引き受けようとしている。

◇【場を、節約した上で、保持する】他に収蔵されているものはそこに委ねる、ここでは集めない、などできるだけ効率化ははかっている。しかし、研究所にしか集まらないものは多く、その割合はむしろ増えている。工夫はしている、それでも手狭になりつつあり、大学との調整を進めていく。



① 専門研究員 研究員 初任研究員	坂井 めぐみ	衣笠総合研究機構	専門研究員
	橋口 昌治	衣笠総合研究機構	専門研究員
	桐原 尚之	衣笠総合研究機構	専門研究員
	シン・ジユヒョン	先端総合学術研究科	初任研究員
② リサーチアシスタント			
③ 大学院生	有松 玲	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	岩崎 弘泰	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	宇津木 三徳	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
	欧陽 珊珊	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	各務 勝博	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	岳 培栄	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	植木 是	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	高 雅郁	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	勝又 栄政	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
	岸田 典子	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	栗川 治	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	小井戸 恵子	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	権藤 眞由美	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	酒井 美和	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	佐草 智久	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	澤岡 友輝	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	篠原 史生	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	清水 一輝	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	焦 岩	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	白杉 眞	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	孫 潔	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
	高木 美歩	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	高橋 みどり	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	高橋 初	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	竹村 文子	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
	舘澤 謙蔵	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	谷口 俊恵	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	種村 光太郎	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
	陳 可為	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
	戸田 真里	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	長澤 奈緒子	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	長島 史織	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
西田 美紀	先端総合学術研究科	博士課程後期課程	
坂野 久美	先端総合学術研究科	博士課程後期課程	
兵頭 卓磨	先端総合学術研究科	博士課程後期課程	
藤井 梓	先端総合学術研究科	博士課程後期課程	

		堀川 諭	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		増田 洋介	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		松浦 智恵美	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		松本 圭古	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		森 康博	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		山口 和紀	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
		ユ・ジンギョン	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		楊 雨双	社会学術研究科	博士課程後期課程
		高 雅郁	先端学術総合研究科	博士課程後期課程
		中井 良平	先端学術総合研究科	博士課程前期課程
		北島 加奈子	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
④ 日本学術振興会特別 研究員 (PD・RPD)				
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研 究生、研修生等)	飯田 奈美子	先端総合学術研究科	授業担当講師	
	北村 健太郎	先端総合学術研究科	授業担当講師	
	藤原 信行	先端総合学術研究科	非常勤講師	
	密田 逸郎	産業社会学部	非常勤講師	
	村上 潔	先端総合学術研究科	非常勤講師	
	酒井 春奈	障害学生支援室	支援コーディネーター	
	佐藤 量	先端総合学術研究科	非常勤講師	
	田邊 健太郎	先端総合学術研究科	授業担当講師	
客員協力研究員	Rehab Abu-Hajjar	中東・イスラーム研究センター	客員協力研究員	
	青木 慎太郎	大阪市立大学都市研究プラザ	特別研究員	
	安部 彰	三重県立看護大学	准教授	
	荒井 裕樹	二松学舎大学文学部国文学科	准教授	
	有田 啓子	世界人権問題研究センター	客員研究員	
	有吉 玲子	アルタンジョラー 金沢星稜大学	非常勤講師	
	アンジェリーナ・チン	ポモナ大学	准教授	
	石岡 亜希子	早稲田大学自動車・部品産業研 究所	招聘研究員	
	一宮 茂子	立命館大学	客員研究員	
	伊東 香純	中央大学	日本学術振興会特 別研究員 PD	
	井上 武史	特定非営利活動法人メインスト リーム協会	職員	
	浦田 悠	大阪大学全学教育推進機構教育 学習支援部	特任講師	

	大久保 豪	株式会社 BMS 横浜	代表取締役
	太田 啓子	独立行政法人国立病院機構大阪 医療センター附属看護学校	非常勤講師
	大貫 菜穂	京都芸術大学	非常勤講師
	岡本 晃明	京都新聞社	編集委員
	尾上 浩二	特定非営利活動法人 DPI 日本会 議	アドバイザー
	勝井 久代	ヘルシンキ大学	准教授
	葛城 貞三	特定非営利活動法人 ALS しがネ ット	理事長
	加藤 有希子	埼玉大学基盤教育研究センター	准教授
	角崎 洋平	日本福祉大学社会福祉学部	准教授
	河合 翔	立命館大学衣笠総合研究機構	客員研究員
	河口 尚子	名古屋市立大学	非常勤講師
	川口 有美子	有限会社ケアサポートモモ	代表取締役
	金 政玉	アイデア・フロント株式会社	
	小林 勇人	日本福祉大学社会福祉学部	准教授
	後藤 悠里	福山市立大学都市経営学部	特任講師
	櫻井 悟史	滋賀県立大学人間文化学部地域 文化学科	准教授
	笹谷 絵里	花園大学 社会福祉学部	専任講師
	貞岡 美伸	京都光華女子大学	教授
	篠原 眞紀子	大阪国際大学	非常勤講師
	柴垣 登	岩手大学教育学部	教授
	志水 洋人	立命館大学	客員研究員
	鍾 宜錚	大谷大学真宗総合研究所東京分 室	PD 研究員
	末田 邦子	愛知淑徳大学	准教授
	鈴木 陽子	沖縄愛楽園交流会館	学芸員
	瀬山 紀子	明治大学	兼任講師
	孫 美幸	文教大学国際学部	准教授
	高橋 慎一	花園大学人権教育研究センター	
	高橋 涼子	金沢大学人間科学系／地域創造 学類	教授
	田中 真美	はしづめ医院	ソーシャルワーカー
	谷田 朋美	毎日新聞社	記者
	鶴田 雅英	社福) 東京コロニー 東京都大田福 祉工場	課長代理
	土肥 いつき	京都府立城陽高校	教諭

利光 恵子	とよなか男女参画センター	相談員
土橋 圭子	大阪大学大学院	研究生
中尾 麻伊香	長崎大学	助教
中倉 智徳	千葉商科大学	専任講師
永田 美江子	平安女学院大学	教授
中村 江里	広島大学大学院	准教授
中村 雅也	東京大学	日本学術振興会特別研究員 PD
永山 博美	神戸労災病院	看護師
新山 智基	神戸国際大学ブルーリ潰瘍問題 支援プロジェクト (ProjectSCOBU)	幹事
野口 友康	特定非営利活動法人予防接種被害者をささえる会	代表理事
能勢 桂介	長野保健医療大学	非常勤講師
萩原 三義	相生鍼灸	院長
萩原 浩史	社会福祉法人加島友愛会	支援課長
橋本 明	愛知県立大学	教授
原 昌平	相談室ぱどる／ぱどる行政書士事務所	代表
番匠 健一	同志社大学＜奄美・琉球・沖縄＞ 研究センター	研究員
樋澤 吉彦	名古屋市立大学大学院人間文化 研究科	准教授
平岡 久仁子	帝京平成大学	非常勤講師
藤岡 毅	藤岡毅法律事務所	弁護士
藤木 和子	法律事務所シブリング	代表弁護士
藤原 良太	柏市役所	主事
細谷 幸子	国際医療福祉大学成田看護学部	教授
ホワニシャン・アストギク	ロシア・アルメニア大学	上級講師
増田 英明	一般社団法人日本 ALS 協会	相談役
町田 奈緒士	奈良女子大学・近畿大学	非常勤講師
松枝 亜希子	㈱LEC	職員
松岡 弘之	岡山大学	講師
松波 めぐみ	大阪市立大学	非常勤講師
松本 理沙	北陸学院大学人間総合学部子ども 教育学科	講師
三島 亜紀子	同志社大学	非常勤講師
宮原 資英	弘前大学大学院	教授

	安田 真之	NPO 法人ゆに	障害学生支援アドバイザー
	山田 裕一	発達協働センターよりみち	センター長
	山本 由美子	大阪府立大学人間社会システム科学研究科	准教授
	梁 陽日	同志社大学	嘱託講師
	横田 陽子	立命館大学	客員研究員
	吉田 幸恵	兵庫医療大学	講師
	吉村 夕里	武庫川女子大学大学院	非常勤講師
	頼尊 恒信	真宗大谷派聞稱寺	副住職
	吉野 靱	大阪府立大学	非常勤講師
	仲尾 謙二	立命館大学	客員研究員
	飯田 奈美子	立教大学	日本学術振興会特別研究員(RPD)
	大野 光明	滋賀県立大学 人間文化学部	准教授
	川田 薫	株式会社サーベイリサーチセンター	職員
	金城 美幸	中京大学国際教養学部 /愛知学院大学文学部	非常勤講師/ 非常勤講師 プロジェクト研究員
	栄 セツコ	桃山学院大学	教授
	榊原 賢二郎	東洋大学ライフデザイン学部/東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻	非常勤講師/ 助教
	篠木 涼	公益財団法人稲盛財団	学術部職員
	谷村 ひとみ	立命館大学	客員研究員
	長崎 潔	JA 厚生連松阪中央総合病院	看護師
	中根 成寿	京都府立大学公共政策学部 福祉社会学科	准教授
	長谷川 唯	立命館大学	客員研究員
	廣野 俊輔	同志社大学社会学部	准教授
	山下 幸子	淑徳大学総合福祉学部	教授
	李 金灯 (アルタニジョラー)	立命館大学	客員研究員
その他の学外者	青木 千帆子		非常勤講師
	青山 薫	神戸大学	教授
	天田 城介	中央大学	教授
	有菌 真代	龍谷大学	講師
	安藤 道人	立教大学	准教授

	市野川 容孝	東京大学	教授
	岩永 理恵	日本女子大学	准教授
	田島 明子	湘南医療大学	教授
	高阪 悌雄	名寄市立大学	教授
	田中 恵美子	東京家政大学	教授
	田中 耕一郎	北星学園大学	教授
	土屋 葉	愛知大学	教授
	廣野 俊輔	同志社大学	准教授
	深田 耕一郎	女子栄養大学	教授
	堀 智久	名寄市立大学	准教授
	三井 さよ	法政大学	教授
	矢野 亮	長野大学	准教授
	山下 幸子	淑徳大学	教授
	渡辺 克典	徳島大学	准教授
	張 万洪	国立武漢大学法学部	教授
	張 恒豪	国立台北大学社会学部	教授
	呉 達明	香港大学 School of Professional and Continuing Education	准教授
	安 孝淑	先端総合学術研究科修了生	2018 年度学位取得
	芝田 純也	新潟福祉大学	教授

### Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2022年3月31日時点) また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	大谷いづみ	『見捨てられる<いのち>を考える——京都ALS嘱託殺人と人工呼吸器トリアージから』安藤泰至・島藺進(編著)	分担執筆	2021年10月	晶文社		
2	小川 さやか	働くことの人類学——仕事と自由をめぐる8つの対話	共著	2021年6月	黒鳥社	松村圭一郎・小川さやか	135-168
3	小川 さやか	働くことの人類学——仕事と自由をめぐる8つの対話	共著	2021年6月		松村圭一郎・深田淳太郎・丸山淳子・小川さやか・中川理	239-270
4	小川 さやか	住まいから問うシェアの未来——所有しえないものの	共著	2021年8月	学芸出版社	岡部明子・鈴木亮平・山道拓人・猪熊純・前	165-184



		シェアが、社会を変える				田昌弘・門脇耕造・小川さやか	
5	小川 さやか	住まいから問うシェアの未来——所有しえないもののシェアが、社会を変える	共著	2021年8月	学芸出版社	岡部明子・鈴木亮平・山道拓人・猪熊純・前田昌弘・門脇耕造・小川さやか	193-202
6	小川 さやか	障害をしやべろう！<上巻>	共著	2021年10月	青土社 上	小川さやか	205-218
7	小川 さやか	思考のコンパス——ノーマルなき世界を生きるヒント	共著	2021年11月	PHP ビジネス新書	山口周・小川さやか	103-131
8	小川 さやか	博報堂生活総研のキラードータで語るリアル平成史	共著	2021年12月	株式会社講談社		
9	小川 さやか	祭りのイノベーション—祭りを「資本の風車」と考えてみる	その他	2021年12月	Amazon	◎加藤正明、福井良慶、小川さやか	123-144
10	小川 さやか	Go To トラベルと「コモンズ」	分担執筆	2021年12月	中央公論新社中央公論 令和4年1月号 136(1)	小川さやか	26-27
11	小川 さやか	文系研究者と企業をつなぐ仕掛け	分担執筆	2022年1月	中央公論新社中央公論 令和4年2月号 もがく大学の再生の道 136(2)	小川さやか	26-27
12	佐藤 達哉	Jaen Valsiner in Japan: The Trajectory of Equifinality Approach (TEA)	共著	2021年10月	SpringerIn: Wagoner B., Christensen B.A., Demuth C. (eds) Culture as Process.	Sato T., Tsuchimoto T., Yasuda Y., Kido A.	443-453
13	佐藤 達哉	臨床心理学史	単著	2021年11月	東大出版会		
14	佐藤 達哉	文化心理学の立場から;「実存の表現の多様性」の光と影	単著	2021年12月	新曜社ソーシャル・コンストラクショニズムと対人支援の心理学	サトウタツヤ	79-100
15	佐藤 達哉	流れを読む心理学史 補訂版	共著	2022年2月	有斐閣	サトウタツヤ・高砂美樹	
16	鎮目 真人	たのしく学ぶ社会福祉 誰もが人間らしく生きる社会をつくる	分担執筆	2021年5月		丹波史紀、石田賀奈子、黒田学、長谷川千春	
17	千葉 雅也	オーバーヒート	単著	2021年7月	新潮社		
18	千葉 雅也	ライティングの哲学——書けない悩みのための執筆論	共著	2021年7月	星海社新書	千葉 雅也, 山内 朋樹, 読書猿, 瀬下 翔太	
19	千葉 雅也	言語が消滅する前に	共著	2021年11月	幻冬舎新書	國分 功一郎, 千葉 雅也	
20	千葉 雅也	欲望会議——性とポリコレの哲学	共著	2021年12月	角川ソフィア文庫	千葉 雅也, 二村 ヒトシ, 柴田 英里	
21	千葉 雅也	現代思想入門	単著	2022年3月	講談社現代新書		
22	中村 正	たのしく学ぶ社会福祉: 誰もが人間らしく生きる社会をつくる (新・MINERVA 福	分担執筆	2021年5月	ミネルヴァ書房	中村正、◎丹波史紀、石田賀奈子、黒田学	

		社ライブラリー 41)/第2章 家族をととして社会を考えてみる——親密な関係における社会病理とジェンダーの視点から						
23	中村 正	どうする日本の家族政策(いま社会政策に何ができるか 3):分担執筆「DV・子ども虐待被害者の脱暴力化支援——親密な関係性における暴力への介入」	分担執筆	2021年11月	ミネルヴァ書房			
24	美馬 達哉	オーファンドラッグの出会い損ない、『身体と環境をめぐる世界史:生政治からみた「幸せ」になるためのせめぎ合いとその技法』	分担執筆	2021年	人文書院	服部 伸		168-194
25	村本 邦子	周辺からの記憶-3.11の証人となった十年	単著	2021年7月	国書刊行会			
26	安田 裕子	児童虐待における司法面接と子ども支援—ともに歩むネットワーク構築をめざして	共編者(共編著者)	2021年12月	北大路書房	田中晶子・安田裕子・上宮愛		

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	立岩真也	とくだんかわったことはなにも	単著	2021年4月	世界思想社平成美術:うたかたと瓦礫 1989-2019	榎木野衣・京都市京セラ美術館編	229	
2	立岩真也	続・介助者として働いてみようという本の話	単著	2021年4月	ジャパン・マシニスト社ちいさい・おおきい・よわい・つよい (129)		156-160	
3	大谷いづみ	「歴史の忘却と連続性—語られてきたナチス「安楽死」政策とコロナ禍の現在」	単著	2021年12月	医薬情報研究所『新薬と臨床』70(12)		59 (1535) - 66 (1542)	
4	小川 さやか	ゆるり観察記 愛の手芸品 内心恐々	単著	2021年	朝日新聞社朝日新聞	小川 さやか		
5	小川 さやか	ギグ・ワーカー化するタンザニアのインフォーマル経済	単著	2021年4月	季刊民族学 (176)	小川さやか	74-81	
6	小川 さやか	ずる賢いやつ	単著	2021年4月	日本経済新聞社日経新聞	小川さやか		
7	小川 さやか	海老はこわい?	単著	2021年4月	日本経済新聞社日経新聞	小川さやか		
8	小川 さやか	弁士はどこへ行った	単著	2021年4月	日本経済新聞社日経新聞	小川さやか		

9	小川 さ やか	麻薬とのたたかい	単著	2021年4 月	日本経済新聞社日経新聞	<u>小川さやか</u>		
10	小川 さ やか	語らない自由	単著	2021年4 月	日本経済新聞社日経新聞	<u>小川さやか</u>		
11	小川 さ やか	ゆるり観察記 SNS で流 れない情報	単著	2021年4 月	朝日新聞社朝日新聞	<u>小川さやか</u>		
12	小川 さ やか	ゆるり観察記 双子に手 品を教えたら	単著	2021年4 月	朝日新聞社朝日新聞	<u>小川さやか</u>		
13	小川 さ やか	書評『ウナギが故郷へ帰 るとき』パトリック・ス ヴェンソン著	単著	2021年4 月	読売新聞社読売新聞	<u>小川さやか</u>		
14	小川 さ やか	書評『チャイナテック— —中国デジタル革命の衝 撃』趙 璋琳著	単著	2021年4 月	読売新聞社読売新聞	<u>小川さやか</u>		
15	小川 さ やか	恵みの雨	単著	2021年5 月	日本経済新聞社日経新聞	<u>小川さやか</u>		
16	小川 さ やか	Tシャツの日本語	単著	2021年5 月	日本経済新聞社日経新聞	<u>小川さやか</u>		
17	小川 さ やか	休み上手	単著	2021年5 月	日本経済新聞社日経新聞	<u>小川さやか</u>		
18	小川 さ やか	夢のマイホーム	単著	2021年5 月	日本経済新聞社日経新聞	<u>小川さやか</u>		
19	小川 さ やか	ゆるり観察記 子どもだ けで都市へ居候	単著	2021年5 月	朝日新聞社朝日新聞	<u>小川さやか</u>		
20	小川 さ やか	ゆるり観察記 知恵で勝 つ 力は弱くとも	単著	2021年5 月	朝日新聞社朝日新聞	<u>小川さやか</u>		
21	小川 さ やか	書評『家は生態系』ロブ・ ダン著	単著	2021年5 月	読売新聞社読売新聞	<u>小川さやか</u>		
22	小川 さ やか	書評『人は簡単には騙さ れない』ヒューゴ・メル シエ著	単著	2021年5 月	読売新聞社読売新聞	<u>小川さやか</u>		
23	小川 さ やか	書評『WHAT IS LIFE? 生 命とは何か』ポール・ナ ース著	単著	2021年5 月	読売新聞社読売新聞	<u>小川さやか</u>		
24	小川 さ やか	OWING OUR ECONOMY 「つい での互助」と変容のエコ システム	単著	2021年6 月	Wired (41)		40-44	
25	小川 さ やか	アジアにおける人の移動 を問い直す	単著	2021年6 月	アジアへのとびら 2021年 度版		2-3	
26	小川 さ やか	バーで飲みたい	単著	2021年6 月	日本経済新聞社日経新聞			
27	小川 さ やか	弱ったときの癒し	単著	2021年6 月	日本経済新聞社日経新聞	<u>小川さやか</u>		
28	小川 さ やか	漆黒の夜と眠らぬ街	単著	2021年6 月	日本経済新聞社日経新聞	<u>小川さやか</u>		

29	小川 さ やか	手ごわい袖の下文化	単著	2021年6 月	日本経済新聞社日経新聞	<u>小川さやか</u>		
30	小川 さ やか	ゆるり観察記 シェア 想定した暮らし	単著	2021年6 月	朝日新聞社朝日新聞	<u>小川さやか</u>		
31	小川 さ やか	実は気楽なはんこ文化	単著	2021年6 月	朝日新聞社朝日新聞	<u>小川さやか</u>		
32	小川 さ やか	書評『計算する生命』森 田真生著	単著	2021年6 月	読売新聞社読売新聞	<u>小川さやか</u>		
33	小川 さ やか	書評『日本で働く——外 国人労働者の視点から』 伊藤泰郎・雀博憲編著	単著	2021年6 月	読売新聞社読売新聞	<u>小川さやか</u>		
34	小川 さ やか	いいね	共著	2021年 7月	クレヨンハウス (56)	<u>小川さやか</u>		
35	小川 さ やか	自分をケアする料理 地 鶏のトマト煮込み	単著	2021年 7月	講談社群像 (8)	<u>小川さやか</u>	104-104	
36	小川 さ やか	ゆるり観察記 貨幣なき 塀の中では	単著	2021年7 月	朝日新聞社朝日新聞	<u>小川さやか</u>		
37	小川 さ やか	ゆるり観察記 開き直る 詐欺師の言い分	単著	2021年7 月	朝日新聞社朝日新聞	<u>小川さやか</u>		
38	小川 さ やか	書評『わたしはイモムシ』 桃山鈴子著	単著	2021年7 月	読売新聞社読売新聞	<u>小川さやか</u>		
39	小川 さ やか	書評『数の発明 私たち は数をつくり 数につく られた』ケイレブ・エヴ レット著	単著	2021年7 月	読売新聞社読売新聞	<u>小川さやか</u>		
40	小川 さ やか	機会のシェアと不確実性 への想像力——タンザニ ア商人を事例に	単著	2021年8 月	『地域開発』夏号(夏)		58-63	
41	小川 さ やか	ゆるり観察記 『汚部屋』 に住む良さ	単著	2021年8 月	朝日新聞社朝日新聞	<u>小川さやか</u>		
42	小川 さ やか	ゆるり観察記 『サヤカ の国』への声援	単著	2021年8 月	朝日新聞社朝日新聞	<u>小川さやか</u>		
43	小川 さ やか	書評『西暦一〇〇〇年 グローバリゼーションの 誕生』ヴァレリー・ハン セン著	単著	2021年8 月	読売新聞社読売新聞	<u>小川さやか</u>		
44	小川 さ やか	書評『心がスツとする 『健やかになる』本 フ ランツカ・カフカ著、頭 木弘樹編訳『絶望名人カ フカの人生論』	単著	2021年8 月	読売新聞社読売新聞	<u>小川さやか</u>		
45	小川 さ やか	書評『逃亡者の社会学 アメリカ都市に生きる黒 人たち』アリス・ゴッフ マン著	単著	2021年8 月	読売新聞社読売新聞	<u>小川さやか</u>		

46	小川 さ やか	「ネイバーフードエコノ ミーと負債のゆくえ—— 東アフリカを事例に」	単著	2021年 8 月		小川さやか		
47	小川 さ やか	都市のアナーキーを流用 する——タンザニアと香 港の街角から	単著	2021年 9 月	河出書房新社都市美 (2)		85-97	
48	小川 さ やか	半自動化経済論——無料 はユートピアをつくらな い	単著	2021年 9 月	ゲンロン (12)		226-246	
49	小川 さ やか	ニューサポート「国語」	共著	2021年 9 月	東京書籍ままならなさを飼 い慣らす知恵 (36)	小川さやか	6-7	
50	小川 さ やか	ゆるり観察記 格好だけ じゃない『年相応』	単著	2021年 9 月	朝日新聞社朝日新聞	小川さやか		
51	小川 さ やか	ゆるり観察記 座席も天 下の回りもの	単著	2021年 9 月	朝日新聞社朝日新聞	小川さやか		
52	小川 さ やか	ゆるり観察記 ヒジャブ の下の自由	単著	2021年 9 月	朝日新聞社朝日新聞	小川さやか		
53	小川 さ やか	書評『野生のごちそう』 ジーナ・レイ・ラ・サー ヴァ著	単著	2021年 9 月	読売新聞社読売新聞	小川さやか		
54	小川 さ やか	書評『チャイニーズ・タ イプライター 漢字と技 術の近代史』トーマス・ S・マラニー著、比護遥訳	単著	2021年 9 月	読売新聞社読売新聞	小川さやか		
55	小川 さ やか	書評『ロスト欲望社会』 橋本努編	単著	2021年 10 月	読売新聞社読売新聞	小川さやか		
56	小川 さ やか	特集アカデミック・ジャ ーナリズム『専門知』を 『臨床知』で乗り越える	共著	2021年 11 月	CCC メディアハウスアステイ オン (95)	渡辺一史・小川さや か・武田徹	44-60	
57	佐藤 達 哉	ナラティブの心理学	単著	2021年 4 月	日本コミュニケーション障 害学会コミュニケーション 障害学 38(1)	サトウタツヤ	75-78	
58	佐藤 達 哉	ヤーンの古希を言祝ぐ： 日本ならびに立命館大学 における TEM とヤーン のネットワークの拡大 (2) 2009 年から一対人 援助学&心理学の縦横無 尽 (30)	共著	2021年 6 月	対人援助学会対人援助学マ ガジン 45		85-99	
59	佐藤 達 哉	対人援助学&心理学の縦 横無尽 (31)	単著	2021年 9 月	対人援助学マガジン (46)	サトウタツヤ	97-99	
60	佐藤 達 哉	対人援助学&心理学の縦 横無尽 (32)	単著	2021年 12 月	対人援助学会対人援助学マ ガジン 47	サトウタツヤ、サトウ タツヤ	108-112	
61	佐藤 達 哉	教師のための認知バイア ス入門	単著	2022年 1 月	明治図書道徳教育 62(1)	サトウタツヤ	38-41	

62	佐藤 達哉	対人援助学&心理学の縦横無尽 (33)	単著	2022年3月	対人援助学会対人援助学マガジン (48)		106-111	
63	佐藤 達哉	TEA(複線径路等至性アプローチ)における記号概念の考察——パース、ヴィゴツキー、ヴァルシナーを手がかりに	共著	2022年3月	立命館大学人間科学研究 立命館人間科学研究 (44)		15-31	
64	佐藤 達哉	TEM(複線径路等至性モデリング)の新たな理論的展開——記号圏とイメージネーション理論を踏まえて	共著	2022年3月	(44)		49-64	
65	鎮目 真人	インタビュー: 里見賢治先生 福祉政策・社会保障論研究と教育への思い	その他	2022年3月	関西社会福祉学会関西社会福祉研究 8	鎮目真人、村田隆史		
66	千葉 雅也	霊の世俗性——フーコー『肉の告白』論	単著	2021年5月	文學界 75(5)		286-292	
67	千葉 雅也	「失われた時を求めて」を求めて	単著	2021年5月	中央公論 135(5)		182-187	
68	千葉 雅也	[小説] オーバーヒート	単著	2021年6月	新潮 118(6)		7-83	
69	千葉 雅也	[対談] フラット化する時代に思考する——ポストモダン思想再考	共著	2021年6月	現代思想 49(7)	大橋 完太郎, 千葉 雅也, 宮崎 裕助	8-21	
70	千葉 雅也	[対談] 〈普通〉からはみ出す恋愛関係	共著	2021年10月	すばる 43(10)	朝吹 真理子, 千葉 雅也	82-93	
71	千葉 雅也	占いと知覚	単著	2021年12月	ユリイカ 53(14)		287-289	
72	千葉 雅也	[対談]「新たなノーマル主義」を超克せよ	共著	2022年1月	Voice (529)	千葉 雅也, 與那覇潤	92-101	
73	千葉 雅也	最初のブラックジョーク	単著	2022年1月	文學界 76(1)		135-137	
74	千葉 雅也	[対談] 心と無意識のゆくえ	共著	2022年2月	文學界 76(2)	東畑 開人, 千葉 雅也	158-172	
75	富永 京子	社会学の社会運動論——隣接領域との関連から	単著	2021年7月	新社会学雑誌 (5)		33-45	
76	長瀬 修	日本の初回審査とパレルレポート	単著	2021年6月	日本障害者リハビリテーション協会新ノーマライゼーション 41(6)		2-4	
77	中村 正	臨床社会学の方法(33) その「ナラティブ」は誰の言葉なのか-沈黙という声、内なる他者の声、支配的な声-	単著	2021年6月	対人援助学会対人援助学マガジン 12(1)	中村正	23-32	
78	中村 正	パワーハラスメント加害者に対する行動変容の支	単著	2021年6月	都市問題 2021年6月号		17-22	

		援-ナラティブ・セラピーによる対話をととして						
79	中村 正	学校のなかの「差別」を考える (3) マイクロアグレッションについて	単著	2021年6月	教職研修 49(10)		54	
80	中村 正	臨床社会学の方法 (34) 関係の非対称性と権力の勾配 - 「俺のっている講義が休講になったのでこれから会いたい」とラインで言われた女子学生と考えたこと-	単著	2021年9月	対人援助学会対人援助学マガジン 12(2)	中村正	21-30	
81	中村 正	臨床社会学の方法 (35) 行方不明の「加害者」たち - コミュニケーションの微細な懸隔	単著	2021年12月	12(3)		21-32	
82	中村 正	児童福祉において「男性問題としての暴力」をいかに扱うか - 男親と「暴力と加害・責任」の対話を拓く試み	単著	2021年12月	日本子ども虐待防止学会 23(3)		237-244	
83	中村 正	臨床社会学の方法 (36) 暴力の文化 - Micro Action for Violence-Free プロジェクト構想-	単著	2022年3月	対人援助学会対人援助学マガジン 12(4)		22-33	
84	松原 洋子	The Eugenic Border Control: Organized Abortions on Repatriated Women, 1945-48	単著	2021年9月	Taylor & Francis OnlineJapan Forum 33(3)	Yoko Matsubara	318-337	
85	松原 洋子	Critical Approaches to Reproduction and Population in Post-War Japan.	共著	2021年9月	British Association for Japanese Studies, Taylor & Francis OnlineJapan Forum 33(3)	Aya Homei & Yoko Matsubara	307-317	
86	松原 洋子	「遺伝性ヒトゲノム編集における被験者保護の倫理」田坂さつき・香川知晶編『人のゲノム編集をめぐる倫理規範の構築を目指して』	単著	2022年3月	知泉書館	松原洋子	161-184	
87	美馬達哉	Bilateral Representation of Sensorimotor Responses in Benign Adult Familial Myoclonus		2021年	Frontiers in neurology 12	Teppei Matsubara, Seppo P Ahlfors, Tatsuya Mima, Koichi Hagiwara, Hiroshi Shigeto, Shozo	759866-759866	

		Epilepsy: An MEG Study.				Tobimatsu, Yoshinobu Goto, Steven Stufflebeam		
88	美馬達哉	Event-Related Desynchronization and Corticomuscular Coherence Observed During Volitional Swallow by Electroencephalography Recordings in Humans.		2021年	Frontiers in human neuroscience 15	Satoko Koganemaru, Fumiya Mizuno, Toshimitsu Takahashi, Yuu Takemura, Hiroshi Irisawa, Masao Matsuhashi, Tatsuya Mima, Takashi Mizushima, Kenji Kansaku	643454- 643454	
89	美馬達哉	Null Effect of Transcranial Static Magnetic Field Stimulation over the Dorsolateral Prefrontal Cortex on Behavioral Performance in a Go/NoGo Task.	共著	2021年4月	Brain sciences 11(4)	Watanabe Tatsunori, Kubo Nami, Chen Xiaoxiao, Yunoki Keisuke, Matsumoto Takuya, Kuwabara Takayuki, Sunagawa Toru, Date Shota, Mima Tatsuya, Kirimoto Hikari		
90	美馬達哉	Effects of transcranial static magnetic stimulation over the primary motor cortex on local and network spontaneous electroencephalogram oscillations.	共著	2021年4月	Scientific reports 11(1)	Shibata Sumiya, Watanabe Tatsunori, Yukawa Yoshihiro, Minakuchi Masatoshi, Shimomura Ryota, Ichimura Sachimori, Kirimoto Hikari, Mima Tatsuya	8261	
91	美馬達哉	Null Effect of Transcranial Static Magnetic Field Stimulation over the Dorsolateral Prefrontal Cortex on Behavioral Performance in a Go/NoGo Task.		2021年4月	Brain sciences 11(4)	Watanabe Tatsunori, Kubo Nami, Chen Xiaoxiao, Yunoki Keisuke, Matsumoto Takuya, Kuwabara Takayuki, Sunagawa Toru, Date Shota, Mima Tatsuya, Kirimoto Hikari		
92	美馬達哉	Effects of transcranial static magnetic stimulation over the primary motor		2021年4月	Scientific reports 11(1)	Shibata Sumiya, Watanabe Tatsunori, Yukawa Yoshihiro, Minakuchi	8261-8261	



		cortex on local and network spontaneous electroencephalogram oscillations.				Masatoshi, Shimomura Ryota, Ichimura Sachimori, Kirimoto Hikari, Mima Tatsuya		
93	美馬達哉	配分される死：パンデミックとトリアージ(特集「死」をいかに語りうるか)	単著	2021年6月	新教出版社福音と世界 76(6)	美馬 達哉	6-11	
94	美馬達哉	Transient Modulation of Working Memory Performance and Event-Related Potentials by Transcranial Static Magnetic Field Stimulation over the Dorsolateral Prefrontal Cortex.	共著	2021年6月	Brain sciences 11(6)	Chen Xiaoxiao, Watanabe Tatsunori, Kubo Nami, Yunoki Keisuke, Matsumoto Takuya, Kuwabara Takayuki, Sunagawa Toru, Date Shota, Mima Tatsuya, Kirimoto Hikari		
95	美馬達哉	Use of transcranial direct current stimulation in poststroke postural imbalance.	共著	2021年6月	BMJ case reports 14(6)	Tomomura Tadayasu, Satow Takeshi, Hyuga Yuko, Mima Tatsuya		
96	美馬達哉	Use of transcranial direct current stimulation in poststroke postural imbalance.		2021年6月	BMJ case reports 14(6)	Tomomura Tadayasu, Satow Takeshi, Hyuga Yuko, Mima Tatsuya		
97	美馬達哉	Transient Modulation of Working Memory Performance and Event-Related Potentials by Transcranial Static Magnetic Field Stimulation over the Dorsolateral Prefrontal Cortex.		2021年6月	Brain sciences 11(6)	Chen Xiaoxiao, Watanabe Tatsunori, Kubo Nami, Yunoki Keisuke, Matsumoto Takuya, Kuwabara Takayuki, Sunagawa Toru, Date Shota, Mima Tatsuya, Kirimoto Hikari		
98	美馬達哉	配分される死：パンデミックとトリアージ(特集「死」をいかに語りうるか)		2021年6月	新教出版社福音と世界 76(6)	美馬 達哉	6-11	
99	美馬達哉	Midfrontal theta as moderator between beta oscillations and precision control.	共著	2021年7月	NeuroImage 235	Watanabe Tatsunori, Mima Tatsuya, Shibata Sumiya, Kirimoto Hikari	118022	

100	美馬達哉	Cybernic treatment with wearable cyborg Hybrid Assistive Limb (HAL) improves ambulatory function in patients with slowly progressive rare neuromuscular diseases: a multicentre, randomised, controlled crossover trial for efficacy and safety (NCY-3001).	共著	2021年7月	Orphanet journal of rare diseases 16(1)	Nakajima Takashi, Sankai Yoshiyuki, Takata Shinjiro, Kobayashi Yoko, Ando Yoshihito, Nakagawa Masanori, Saito Toshio, Saito Kayoko, Ishida Chiho, Tamaoka Akira, Saotome Takako, Ikai Tetsuo, Endo Hisako, Ishii Kazuhiro, Morita Mitsuya, Maeno Takashi, Komai Kiyonobu, Ikeda Tetsuhiko, Ishikawa Yuka, Maeshima Shinichiro, Aoki Masashi, Ito Michiya, Mima Tatsuya, Miura Toshihiko, Matsuda Jun, Kawaguchi Yumiko, Hayashi Tomohiro, Shingu Masahiro, Kawamoto Hiroaki	304	
101	美馬達哉	Midfrontal theta as moderator between beta oscillations and precision control.		2021年7月	NeuroImage 235	Watanabe Tatsunori, Miura Tatsuya, Shibata Sumiya, Kimoto Hikari	118022-118022	
102	美馬達哉	Cybernic treatment with wearable cyborg Hybrid Assistive Limb (HAL) improves ambulatory function in patients with slowly progressive rare neuromuscular diseases: a multicentre, randomised, controlled crossover trial for		2021年7月	Orphanet journal of rare diseases 16(1)	Nakajima Takashi, Sankai Yoshiyuki, Takata Shinjiro, Kobayashi Yoko, Ando Yoshihito, Nakagawa Masanori, Saito Toshio, Saito Kayoko, Ishida Chiho, Tamaoka Akira, Saotome Takako, Ikai	304-304	

		efficacy and safety (NCY-3001).				Tetsuo, Endo Hisako, Ishii Kazuhiro, Morita Mitsuya, Maeno Takashi, Komai Kiyonobu, Ikeda Tetsuhiko, Ishikawa Yuka, Maeshima Shinichiro, Aoki Masashi, Ito Michiya, Mima Tatsuya, Miura Toshihiko, Matsuda Jun, Kawaguchi Yumiko, Hayashi Tomohiro, Shingu Masahiro, Kawamoto Hiroaki		
103	美馬達哉	People with High Empathy Show Increased Cortical Activity around the Left Medial Parieto-Occipital Sulcus after Watching Social Interaction of On-Screen Characters.		2022年1月	Cerebral cortex (New York, N. Y. : 1991)	Masayoshi Hamada, Jun Matsubayashi, Kenta Tanaka, Makiko Furuya, Masao Matsuhashi, Tatsuya Mima, Hidenao Fukuyama, Akira Mitani		
104	美馬達哉	Brain-Computer Interface Training Based on Brain Activity Can Induce Motor Recovery in Patients With Stroke: A Meta-Analysis.		2022年2月	Neurorehabilitation and neural repair 36(2)	Ippei Nojima, Hisato Sugata, Hiroki Takeuchi, Tatsuya Mima	83-96	
105	村本 邦子	周辺からの記憶 31 チェルノブイリを訪ねる	単著	2021年6月	対人援助学会対人援助学マガジン 12(1)		150-190	
106	村本 邦子	周辺からの記憶 32 2019年岩手・福島	単著	2021年9月	12(2)		130-166	
107	村本 邦子	周辺からの記憶 33 コロナ禍でのシンポジウム	単著	2021年12月	対人援助学会対人援助学マガジン 12(3)		155-162	
108	村本 邦子	周辺からの記憶 34 2020年コロナ禍とともに迎えた十年目	単著	2022年3月	対人援助学マガジン 12(4)		150-167	
109	村本 邦子	福島における原子力災害のフォーラムを育む一抵	共著	2022年3月	立命館平和研究 (23)	村本邦子・河野暁子	43-52	

		抗する民間のミュージアムの可能性						
110	安田 裕子	法と心理学会第21回大会 ワークショップ D. A. Poole 著 『Interviewing Children』 から学ぶこと	共著	2021年12月	法と心理 21(1)	田中晶子・羽瀨由子・仲真紀子・安田裕子・田中周子・佐々木真吾・田鍋佳子・赤嶺亜紀	91-97	
111	安田 裕子	法と心理学会第21回大会 ワークショップ 父母間での子の奪い合い 紛争をめぐる法と心理	共著	2021年12月	法と心理 21(1)	松本克美・小川富之・安田裕子・吉田容子・金成恩	67-73	
112	安田 裕子	トランスビューからマルチビューへの展開を通じた経験の物語化への方法論—ボランティア体験の言語化を促進する実践的研究へのアプローチとして	共著	2022年2月	ボランティア学研究 22	山口洋典・北出慶子・遠山千佳・村山かなえ・安田裕子	97-112	
113	安田 裕子	子どもを「産む」と決めること	共著	2022年3月	質的心理学研究 (第20号発刊記念臨時特集企画) (20)	妹尾麻美・三品拓人・安田裕子	140-147	
114	安田 裕子	脳卒中患者における不安を中心とした経時的心理変化—TEM(複線径路等至性モデリング) による分析	共著	2022年3月	対人援助学研究 12	原田梓・安田裕子・三田村仰	28-42	

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	大谷いづみ	安楽死・尊厳死論の歴史と宗教—「わたし・たち」の物語を語り直すために—	2021年6月	東本願寺教学研究「生老病死と現代」所内研究会	大谷いづみ
2	大谷いづみ	「開会の挨拶」・報告「断断ではなく架橋へ」	2021年11月	情報保障のいまとこれから——生存学研究所の取り組み	大谷いづみ
3	大谷いづみ	教育におけるアクセシビリティと障害学生の存在が拓くSDG's 社会の未来	2022年2月	産業社会学部 FD「教育におけるアクセシビリティと障害学生の存在が拓くSDG's 社会の未来」	大谷いづみ・川端美季
4	大谷いづみ	「障害の経験」を共有する痛み(と希望) (開会挨拶に代えて)	2022年2月	「障害者と労働」研究会 2021年度公開研究会 「重度障害者の介助付き就労の可能性——「健常者より優秀でない」と社会で生きていけないのか？」	
5	大谷いづみ	高等教育研究機関におけるハンドル形電動車いす利用者の移動アクセシビリティ——欧米韓日を中心に	2022年2月	2021年度人間科学研究所年次総会	大谷いづみ・川端美季

6	大谷いづみ	ラウンドテーブル：東アジアにおける障害者の地域における自立生活 座長報告	2022年2月	障害学国際セミナー 2022	大谷いづみ
7	小川 さやか	【招待講演】タンザニアで未来の人間の接続について考えたこと	2021年4月	地球環境研究会	
8	小川 さやか	香港で暮らすタンザニア人たちの『開かれた互酬性』	2021年4月	Weの時代の経済考	小川さやか
9	小川 さやか	『稼ぐ』を超える	2021年6月	アカデミーヒルズ『CATALIAT TALK 塚田有名那「自然との境界を引き直す第1回 小川さやかさんと「稼ぐ」を超える』	
10	小川 さやか	ネイバーフッドエコノミーと負債のゆくえー東アフリカを事例に	2021年8月	負債の動態に関する比較民族誌的研究	小川さやか
11	後藤 基行	COVID-19のクラスター発生に関わる 京都産業大学関係者に対する誹謗中傷や励まし等に関わる実態調査ー学生・教職員に対するアンケート結果ー	2021年5月	第47回日本保健医療社会学会大会	後藤基行, 堀川諭
12	佐藤 達哉	裁判員制度における評議のグッド・プラクティスへのコメント	2021年5月	2021年度日本法社会学会	サトウタツヤ
13	佐藤 達哉	Nursing Teachers' Ability Formation Process in the TEA Method Approach: Three Layers Model of Genesis Focusing on Instructor K's internal dialogue.	2021年6月	Nursing Teachers' Ability Formation Process in the TEA Method Approach: Three Layers Model of Genesis Focusing on Instructor K's internal dialogue.	Tanaka, C., Sato, T., Miyashita, T., & Tsuchimoto, T.
14	佐藤 達哉	An Introduction to Trajectory Equifinality Approach: Theory and Practice.	2021年6月	11th International Conference on the Dialogical Self	Sato, T., Tsuchimoto T., Miyashita, T., & Tanaka, C..
15	佐藤 達哉	Dialogical Self during school-to-work transition :comparison between Japan and Brazil.	2021年6月	11th International Conference on the Dialogical Self	Banda, K., Yasuda, Y., Ieshima, A., Tsuchimoto, T., Mattos, E., & Sato, T.
16	佐藤 達哉	文化とともにある看護教員の力量形成過程一分岐点におけるイメージーション理論を用いて	2021年8月	日本看護学教育学会第31回学術集会	田中千尋・横山直子・サトウタツヤ
17	佐藤 達哉	裁判員裁判の評議における意見変容プロセスの分析	2021年10月	第22回法と心理学会	杉本菜月・中田友貴・サトウタツヤ

18	佐藤 達哉	未必的殺意の説示と理解の過程—模擬評議の質的分析を通じて—	2021年10月	第22回法と心理学会	杉本菜月・サトウタツヤ
19	佐藤 達哉	TEA の新展開—想像／構想力、展結、関係構造との関連を中心に—	2022年1月	対人援助学会第19回大会	サトウタツヤ
20	鎮目 真人	年金制度における不人気改革の制度分析—制度縮減の理論と検証—	2021年8月	第16回 社会保障国際論壇	鎮目真人
21	富永 京子	過去の社会運動に対する否定的評価は政治参加にどう影響するのか	2021年6月	日本NPO学会第23回研究大会	
22	富永 京子	テレビに映ったのは研究者か、それとも活動家なのか: 研究者活動家 (Scholar-Activist) の目を通じたマスメディアと社会運動の「分断」	2021年6月	マス・コミュニケーション学会2021春季大会	
23	富永 京子	環境危機と社会教育: 小さな社会運動の背景にあるもの	2021年6月	日本社会教育学会2021年6月集会	
24	富永 京子	What is the Role of Mass Media for Activists?: The Process of Forming the Activist Identity under the Gaze of the Media	2021年6月	Alternative Futures & Popular Protest, 2021	
25	富永 京子	Constructing Depoliticized Youth in the late 1970s: The Case of Youth Culture Magazines	2021年8月	16th International Conference of the European Association for Japanese Studies 24-28 August 2021	
26	長瀬 修	新型コロナウイルス感染症と障害者権利条約	2021年11月	第9回 DPI 障害者政策討論集会 シンポジウム「障害者権利委員会へのJDFのパラレルレポートと課題」	
27	長瀬 修	Advocacy and facilitation of the implementation of the rights of persons with disabilities and CRPD during the COVID-19 pandemic (keynote address)	2021年11月	Wuhan University Institute for Human Rights Studies and China Disability Research Society Rights Protection Committee	
28	中村 正	Some significant points of considering Japanese experience of	2021年6月	Asian Criminological Society 12th Annual Conference	

		therapeutic jurisprudence in the field on domestic violence			
29	中村 正	若年者と司法福祉	2021年12月	第21回日本司法福祉学会	
30	中村 正	刑事司法は<社会問題>をどのように視野に入れるか -「情状」とは何かをとおし て考える	2022年1月	第37回日本社会病理学会	西谷裕子、市川岳仁、後藤弘子、指宿信
31	中村 正	ステイホームとケアリーバ ーケアリーバーがコロナ 禍の社会を生きるというこ と	2022年1月	第13回対人援助学会	浦田雅夫、ブローハン聡、
32	松原 洋子	「優生学の何が問題かー 日本学術会議提言の議論か ら」、公募ワークショップ 「人の生殖にゲノム編集技 術を用いることの倫理的 正当性について」	2021年5月	日本哲学会第80回大会	松原洋子
33	松原 洋子	「患者・市民が参画するア ーカイブ構築と歴史的 ELSI 研究」(オーガナイザ ー)	2021年11月	第33回日本生命倫理学会年次大会	
34	松原 洋子	Legacy of Eugenics: Reproduction, Female Body, and Medical Technologies	2022年2月	East Asia Disability Studies Forum 2022	Yoko Matsubara
35	村本 邦子	東アジアにおける戦争トラ ウマの世代関連鎖と和解修 復の試み	2021年10月	日本における第二次世界大戦の長期的 影響に関する学際シンポジウム	
36	村本 邦子	「土地の力」を描き出す	2021年10月	日本質的心理学会第18回大会	
37	村本 邦子	対人援助学における環境と 個人の相互作用～トラウマ の視点から	2022年1月	対人援助学会第13回大会	
38	安田 裕子	Japanese Trend of the Therapeutic Jurisprudence: Looking back and looking into the future (Forensic Interview: Looking ahead to the connection from support for victim children to support for perpetrator parents)	2021年6月	Asian Criminological Society 12th Annual Conference	Ibusuki, M. , Goto, H. , Nakamura, T. , Yasuda, Y. , & Maruyama, Y.
39	安田 裕子	The process of learning	2021年8月	PBL2021	Yamaguchi, H. , Kitade, K. ,

		and growing of peer supporters through place management: For curriculum and co-curriculum hybridization			Tohyama, C. , Yasuda, Y. , & Murayama, K.
40	安田 裕子	母親の個人要因が Covid19 に伴う外出自粛期間中の母子 QOL に与える影響	2021 年 9 月	日本心理学会第 85 回大会	孫怡・神崎真実・土元哲平・破田野智己・肥後克己・鈴木華子・サトウタツヤ・安田裕子・岡本尚子・矢藤優子
41	安田 裕子	6 ヶ月齢児の表情刺激への注視時間と養育者との社会的関係性との関連	2021 年 9 月	日本心理学会第 85 回大会	矢藤優子・孫怡・藤戸麻美・岡本尚子・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子・肥後克己・中田友貴・破田野智己・土元哲平・神崎真実
42	安田 裕子	母子の関係とオキシトシン分泌量の関連	2021 年 9 月	日本心理学会第 85 回大会	山口祐司・肥後克己・岡本尚子・孫怡・神崎真実・中田友貴・土元哲平・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子・矢藤優子・妹尾麻美・破田野智己
43	安田 裕子	展結について	2021 年 9 月	日本心理学会第 85 回大会	サトウタツヤ・土元哲平・田中千尋・宮下太陽・安田裕子・森直久
44	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ ( Trajectory Equifinality Approach: TEA) —基礎編	2021 年 9 月	日本心理学会第 85 回大会	安田裕子・サトウタツヤ
45	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ ( Trajectory Equifinality Approach: TEA) —応用編	2021 年 9 月	日本心理学会第 85 回大会	サトウタツヤ・安田裕子
46	安田 裕子	公認心理師の専門性における事実確認を目的とした面接スキル—教育・福祉・司法領域に広がる公認心理師による司法面接の活用とその課題	2021 年 10 月	法と心理学会第 22 回大会	上宮愛・横光健吾・直原康光・安西敦・田中晶子・安田裕子・仲真紀子
47	安田 裕子	理事会企画シンポジウム① 対人援助学における環境と個人の相互作用 (研究法の観点から 行動分析学と質的研究法 TEA—もの見方ととらえる世界の共通性)	2022 年 1 月	対人援助学会第 13 回大会	藤信子・中鹿直樹・村本邦子・安田裕子・土田菜穂
48	安田 裕子	生殖の多様性を支える現場は今 (子どもの望んだ女性たちの選択と意味づけのライフストーリー)	2022 年 2 月	第 19 回日本生殖心理学会・学術集会	杉本公平・山崎圭子・田尻由貴子・登山万佐子・本田恒平・安田裕子
49	安田 裕子	コロナ禍における家庭養育環境が親子の QOL に与える影響—日中比較による検討	2022 年 3 月	日本発達心理学会第 33 回大会	連傑涛・矢藤優子・孫怡・神崎真実・肥後克己・土元哲平・岡本尚子・安田裕子・鈴木華子・佐藤達哉



50	安田 裕子	簡易版育児ストレス尺度作成の試み	2022年3月	日本発達心理学会第33回大会	木村駿斗・孫怡・矢藤優子・妹尾麻美・肥後克己・神崎真実・中田友貴・安田裕子・岡本尚子・鈴木華子・佐藤達哉
51	安田 裕子	妊娠から産後移行期間における女性QOLの4時点変化について—潜在曲線モデルを用いて	2022年3月	日本発達心理学会第33回大会	孫怡・矢藤優子・神崎真実・妹尾麻美・肥後克己・中田友貴・安田裕子・岡本尚子・鈴木華子・佐藤達哉
52	安田 裕子	日中韓における育児支援リソースの多様性と利用実態、母子のwell-beingに関する比較研究—育児期の母親を対象としたインタビュー調査の結果から	2022年3月	日本発達心理学会第33回大会	矢藤優子・孫怡・安田裕子・三品拓人・吉沅洪・陳婷婷・Park Joonha

#### 4. 主催したシンポジウム・研究会等

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	移動する権利・移動できる権利 ——コロナをきっかけに「手助けが必要な人」からの脱却	Zoom	2021年6月	50名	
2	「オンライン化」のその先へ——障害当事者が語るアクセシビリティ	Zoom	2021年6月	50名	
3	オンラインワークショップ「方法としての反ワクチン——歴史で考えるワクチン政策と抵抗する人びと——」	Zoom	2021年9月	50名	
4	情報保障のいまとこれから——生存学研究所の取り組み	Zoom	2021年11月	50名	
5	生物学史分科会研究会「クリスパー(CRISPR)哲学とラマルクの危険な思想	Zoom	2021年12月	50名	
6	障害学国際セミナー 2022	Zoom	2022年2月	100名	韓国障害学会、台湾障害学会、東湖社会発展研究所、障害学会、科研費基盤(C) 東アジアにおける障害者権利条約の実施と市民社会
7	立命館大学生存学研究所プロジェクト感染症研究会「日本のパンデミック対策成立経緯: 新型インフルエンザ専門家会議を中心に」	Zoom	2022年3月	50名	

#### 5. その他研究活動 (報道発表や講演会等)

No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	大谷いづみ	随筆随想 (1) 死生と関わる主題 通奏低音のように響く	『中外日報』4面	2021年10月
2	大谷いづみ	随筆随想 (2) なぜ? という問い 番組が与える影響懸念	『中外日報』4面	2021年10月
3	大谷いづみ	随筆随想 (3) 「わきまえ」の分水嶺 端的に表れる社会のひずみ	『中外日報』4面	2021年10月
4	大谷いづみ	随筆随想 (4) 「謝罪文に思う 加害—被害間に越えがたい溝	『中外日報』4面	2021年10月
5	大谷いづみ	「安楽死」論の拡大懸念 (生きた い社会に ALS 囁託殺人/5)	『毎日新聞』京都版	2021年12月

6	村本 邦子	新聞記事への協力「精神医療の陰：繰り返される性虐待」		2021年12月～2021年12月
7	安田 裕子	「学振申請書作成講座」日本学術振興会特別研究員 申請内容ファイル作成のポイント（講習会）	立命館大学（オンライン開催）、2022年度日本学術振興会特別研究員申請ガイドンス	2021年4月～2021年4月
8	安田 裕子	「学振申請書作成講座」日本学術振興会特別研究員 申請内容ファイル作成のポイント（講習会）	立命館大学（オンライン開催）、2022年度日本学術振興会特別研究員申請ガイドンス	2021年4月～2021年4月
9	安田 裕子	ライフとキャリアと生涯発達心理学—私の歩み、あなたの歩み	大阪府立四條畷高等学校、大阪府立四條畷高等学校 飯盛セミナー	2021年10月～2021年10月
10	安田 裕子	日本生殖心理学会資格継続研修会、TEAによる不妊女性のライフストーリー研究と臨床への示唆	オンデマンド	2022年3月～2022年3月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	衣笠三郎	財団法人〇〇財団	〇〇優秀文化賞	〇〇に関する研究	2014年10月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	立岩真也	「障害の社会モデル」を重視したリハビリテーションのための内省型研修プログラム開発	基盤研究(C)	2020年4月		研究分担者
2	立岩真也	生を辿り途を探す——身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021年4月		研究代表者
3	大谷いづみ	生命倫理学前史・成立史における安楽死論とキリスト教の相剋に関する米英日比較研究	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	研究代表者
4	大谷いづみ	生を辿り途を探す——身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021年4月	2026年3月	研究分担者
5	小川 さやか	アフリカ遊動社会における接合型レジリアンス探求による人道支援・開発ギャップの克服	基盤研究(A)	2018年4月	2023年3月	研究分担者
6	小川 さやか	インフォーマル化するアジア：グローバル化時代のメガ都市のダイナミクスとジレンマ	基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	研究分担者
7	小川 さやか	アフリカ諸国における暗号通貨を利用した国際取引に関する人類学的研究	基盤研究(C)	2020年4月	2025年3月	研究代表者
8	岸 政彦	沖縄戦の生活史と戦後沖縄社会の構造変容	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	研究代表者
9	後藤 基行	家族同意に基づく非自発的な精神科入院の歴史的研究—精神衛生法下における同意入院—	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	研究代表者
10	後藤 基行	医療アーカイブズの構築と利用環境の整備に関する先導的研究—九州大学診療録	挑戦的研究(開拓)	2020年7月	2023年3月	研究分担者

		を材料に				
11	後藤 基行	アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究	基盤研究(A)	2021年4月	2024年3月	研究分担者
12	後藤 基行	生を辿り途を探す——身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021年4月	2026年3月	研究分担者
13	後藤 基行	20世紀日本の医療・社会・記録—医療アーカイブズから立ち上がる近代的患者像の探求	基盤研究(A)	2021年4月	2025年3月	研究分担者
14	鎮目 真人	「市民」に必要な能力は何か：シティズンシップ教育のプログラム開発に関する基礎研究	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	研究分担者
15	鎮目 真人	公的年金制度の制度改革と脱貧困化に向けた政策立案	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	研究代表者
16	千葉 雅也	自閉症に関する哲学と医学の学際的研究：ドゥルーズ哲学と自閉症研究の融合	基盤研究(B)	2019年4月	2022年3月	研究分担者
17	富永 京子	メディア文化史における「1970年代」の戦後史位置の再考	基盤研究(B)	2017年4月	2022年3月	研究分担者
18	富永 京子	社会運動における排除・周縁化のメカニズム——活動従事者の日常に注目して	若手研究	2019年4月	2022年3月	研究代表者
19	長瀬 修	東アジアにおける障害者権利条約の実施と市民社会	基盤研究(C)	2018年4月	2023年3月	研究代表者
20	中村 正	脱刑事罰処理を支える「治療法学」の確立に向けた学際的総合的研究	基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	研究分担者
21	中村 正	男性性と暴力の臨床社会学的研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	研究代表者
22	西 成彦	「ホロコースト文学」における語圏間の隣接性に関する比較文学的研究	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	研究代表者
23	松原 洋子	アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究	基盤研究(A)	2021年4月	2024年3月	研究代表者
24	美馬 達哉	記憶・想起の脳機能ネットワークの解明と認知症早期治療システムの構築	基盤研究(B)	2018年4月	2022年3月	研究分担者
25	美馬 達哉	静磁場暴露による低周波脳律動の誘導と関連領域との相互結合性の変化	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	研究分担者
26	美馬 達哉	新規非侵襲的脳刺激が拓くネオ・リハビリテーションとそのシステム脳科学的解明	基盤研究(A)	2019年4月	2023年3月	研究代表者
27	美馬 達哉	脳卒中者の機能再建を可能とするアンサンブル脳刺激法の創成	挑戦的研究(萌芽)	2021年7月	2023年3月	研究代表者

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	大谷いづみ	米国PBS・TVドキュメントとジェーン・エリオット差別実験授業「青い目茶色い目」の50年		2021年	2022年	研究代表者
2	佐藤 達哉	人文社会科学の復興知に基づく標葉地域の循環型共同教育の実践		2021年6月	2026年3月	研究代表者

3	富永 京子	社会運動を経験した若年層によるキャリア選択としての『自営業』			2020年9月	2021年8月	研究代表者
4	富永 京子	政治に対する冷笑と無関心の戦後史- 若者文化におけるメディア・コミュニケーションの視点から			2020年10月	2021年9月	研究代表者
5	富永 京子	1970-80年代若者文化におけるマスメディアの位置—参加対象としてのテレビ番組			2021年4月	2022年3月	研究代表者
6	富永 京子	環境配慮適・倫理的意義を持つ移動手段としての鉄道に関する研究			2021年10月	2022年3月	研究代表者

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	立命太郎	特許(国内)	本人単独	筆頭発明者	****	****	****	日本